

三州食品株式会社 様



利用者が意識することなく、 セキュアな社内ネットワークへ自動接続 高いセキュリティと利便性を両立

専用線敷設が難しい拠点や出張先など社外からの接続には、VPN回線が利用されることが一般的だ。複数拠点を持つ三州食品も、専用線とVPN回線を用いてネットワークを構築していた。しかし、VPN接続に関して、毎回接続する手間や制御・管理の難しさ、頻繁な接続切れや接続不良などの多くの課題があった。そこで、APRESIA Systemsの提供している『KOKOMO』を導入。SIM技術を用いた認証と暗号化や自動接続・自動識別機能により、これら課題を解決し、セキュアなリモートワークを実現している。

三州食品株式会社

所在地

〒485-0802
愛知県小牧市大字大草5447-6

URL

http://www.sansyu-egg.co.jp/

設立

昭和39年4月

従業員数

311名 2024年6月30日現在(役員除く)

事業内容

液卵加工品の製造・販売、鶏卵加工品(ゆでたまご、温泉卵、卵殻カルシウム、洋菓子)の製造・販売、育成・養鶏農場の経営など、幅広い事業を展開



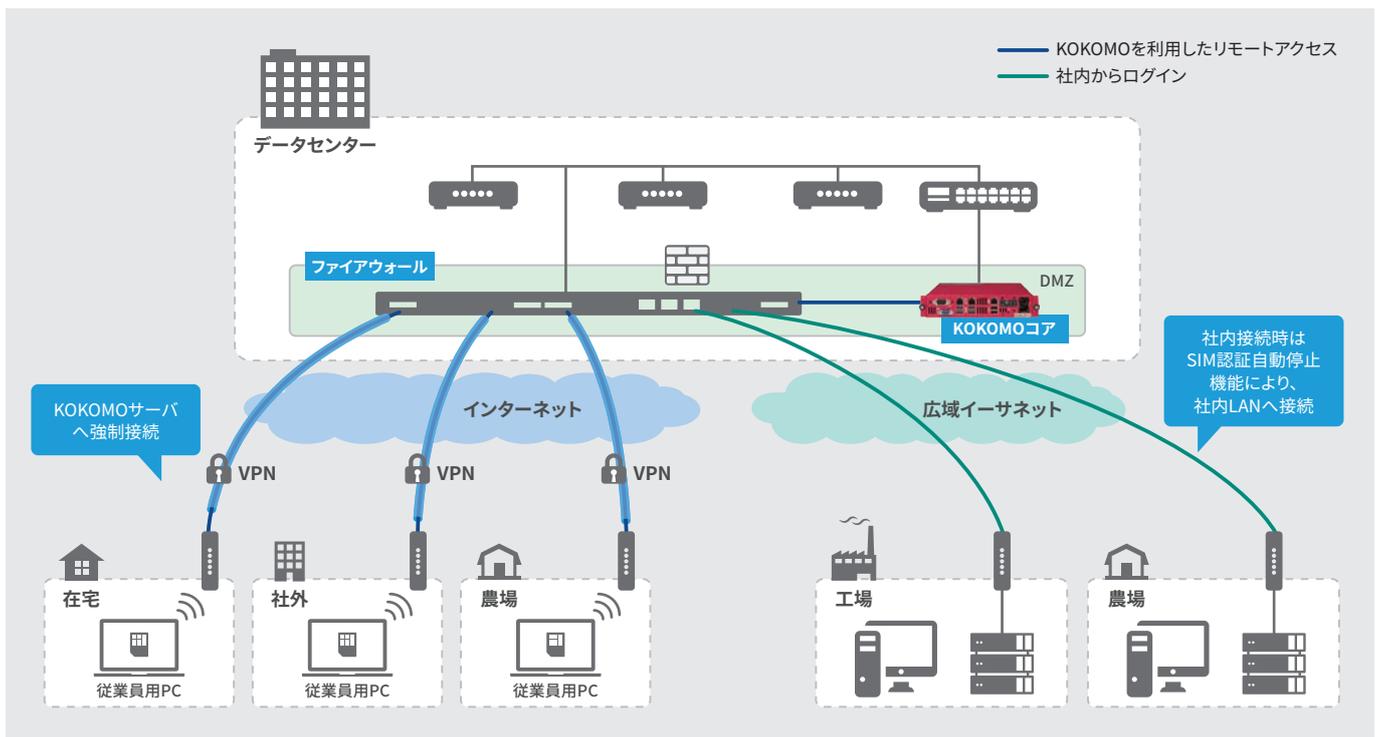
導入背景

- 既存VPNは、毎回の接続が手間で管理が難しく、未接続時にセキュリティリスクが高まる
- 接続が切れやすいVPNは再接続に手間がかかり、利用者に負担を強いる
- 出張などの利用頻度が不定なため、ユーザーごとのライセンスでは費用がかさむ

導入効果

- KOKOMOにより端末認証・暗号化を自動化し、セキュアなリモートワーク環境を提供
- ソフトSIMをインストールしたデバイスは起動するだけで自動的に社内ネットワークに接続
- 同時接続ライセンスのため、ユーザー課金ライセンスと比較して高コストパフォーマンス

■三州食品のネットワーク構成



外出先、自宅などからのリモートアクセス接続時には、ファイアウォールを経由してKOKOMOコアへ強制接続され、社内からの接続時にはSIM認証自動停止機能により、社内ネットワークに直接接続される。

セキュアに制御・管理可能なリモートワーク環境を構築

三州食品は、徹底した品質・衛生管理のもと、養鶏から液卵、ゆでたまご、鶏卵加工品などの製造まで、一貫生産体制 (Farm to Table) を推進している。愛知県小牧市の本社を中心に、工場、営業所、農場など、多くの拠点をもち、育成・養鶏から卵の加工、出荷までのすべての工程を自社グループ内で一貫して行っている。

三州食品では、これらの拠点とのネットワークを専用線で構築して業務を行っていたが、拠点によっては専用線を敷くことが難しく、その場合はVPNを利用してネットワークに接続していた。総務部 情報システム担当の上野昇次氏は当時のネットワーク環境の課題について話す。

「従業員が専用線をもたない拠点や、出張・在宅などの社外では、配布したモバイルWi-Fiを利用してVPNで社内ネットワークに接続するルールになっていました。ただ、VPN接続はインターネットに接続したのちに手で社内接続しなければならず、手間がかかる問題がありました。この接続を自動で簡単にしたいと考えていました。さらに当時利用していたVPNは頻繁に接続が途切れ、利用者はそのたびに再接続を強いられていました。これにも多くの不満の音があがっていました」(上野氏)。

これらの課題を解決すべく、三州食品では、新しいVPNソリューションを検討。ただ、既存の環境はルーターのVPN機能を利用していため、コスト負担なく利用できていた。そこで新たなソリューションには、コストを考慮して、ユーザー課金ライセンスではなく、同時接続ライセンスが望ましいと考えた。

三州食品のネットワーク課題に対応可能なKOKOMOを採用

複数のソリューションを調査する中で出会ったのが、APRESIA Systemsの提供するハイブリッドワーク・アプライアンス『KOKOMO』だ。

KOKOMOは、デバイスにソフトSIMをインストールすることで、必要な場所で自動動作

するリモートアクセス環境を実現できるソリューション。デバイス側での特別な機構は一切不要で、端末認証・暗号化が可能だ。専用のKOKOMOコア(サーバー)をユーザー環境に設置することで利用でき、社外でもセキュリティが担保できるリモートアクセスが可能となる。また、KOKOMOは年額でライセンスを更新する契約形態を提供しており、必要なライセンス数を柔軟に管理できる。

KOKOMOは、上野氏が課題として挙げていた「社外からはセキュリティを担保した上で社内ネットワークへの接続が必須」「接続を自動化」「同時接続ライセンス」を十分に満たすものだった。さらに、APRESIA Systemsは三州食品への提案にあたって、KOKOMOの実機による使い勝手や効果などを検証してもらうためのPoC(検証環境)の設置を提案した。

PoCを実施した評価について上野氏は、「確かに使いやすく、従業員からの評判が良かったです。ソフトSIMを入れておけば意識しなくても社内ネットワーク上のKOKOMOに繋がりますし、再接続の面倒がなくなったという声が多かったです」と評価する。使い勝手や機能を検証し、コストパフォーマンスも勘案して、三州食品ではKOKOMOの採用を決定した。

導入したのは、KOKOMOコアサーバーアプライアンスと、25同時接続ライセンス(SIM発行可能数100)。導入を担当した総務部 情報システム課の坂井田知弥主務は次のように振り返る。

「従業員が専用線の敷けない拠点や社外で利用することを考慮して、25同時接続のライセンスを選びました。導入は難なく進み、ユーザー登録などの設定作業は、最初に説明いただいた後は自社で対応できましたし、KOKOMOコアのデータセンター設置などもAPRESIA Systemsが積極的に支援を行ってくれて助かりました」(坂井田氏)。

安定稼働と高セキュリティの両立を実現

導入後は、「安定して稼働しています」と上野氏。ソフトSIMをインストールしたデバイスは、社外利用では自動的に社内ネットワーク上のKOKOMOのコアに接続し、社内利用ではソフト

SIM認証自動停止機能によりKOKOMOでの接続は行われぬ設定になっている。また社外でKOKOMOの接続が一時的に切れた場合、インターネット接続が確立された後、認証が再度自動的に行われる。上野氏は「運用中も管理用ユーザーインターフェイスを使っている情報閲覧や設定変更などは容易で、手間をかけることがほぼないと言って良いくらいです」と評価する。

そうした自動接続によるセキュリティ担保に加え、当初想定していなかった活用もできたという。それは「KOKOMOの機能を使って、無許可で外に持ち出されたデバイスをインターネットに接続させないようにできること」と坂井田氏。三州食品では、ノートPCやモバイルなどの一部の「持ち出しやすかつ社外から繋ぐ必要がないもの」は、勝手に持ち出してインターネットに接続しないようにブロックしている。

コスト感については、一度も更新していないので正確なランニングコストはまだ分からないとしながらも、「同じ仕組みを作り上げようと思ったときに、今回程度のコストではできないはずで、コストパフォーマンスは良いと思います。許可していないデバイスでインターネット接続をさせない機能などもセキュリティ上有効で、費用対効果も良く、とても使えるソリューションだと感じています」と上野氏は話す。なお三州食品では今後もライセンスの延長を検討しているという。

提案から構築、運用に至るまで、APRESIA Systemsでは積極的に支援を行っている。その対応について坂井田氏は「さまざまな質問に対して素早く返答をいただき、検討しやすい状況を作ってもらいました。構築や運用でちょっとした問題があった際など、迅速にフォロー・解決していただき、とても良い対応していただきました」と評価する。

今後の展望について上野氏は「KOKOMOを導入したことで、社員がどこにいても安全かつスムーズに社内ネットワークに接続できるようになり、基盤としてのネットワーク環境が整いました。今後はこの基盤の上で、より効率的に業務を進められるDXを推進していきたいと思っています」と力強く語った。DXの進展が急速に進む中、それを支えるネットワーク環境の整備が求められる。三州食品の事例は、その重要な指針を示している。

拠点グループ	拠点名	接続数	チャット	VPN	スタータス	接続場所	接続のタイプ	接続のタイプ
本社	本社	12-345-678	○	○	○	本社	有線LAN	有線LAN
工場	工場	12-345-678	○	○	○	工場	有線LAN	有線LAN
営業所	営業所	12-345-678	○	○	○	営業所	有線LAN	有線LAN
農場	農場	12-345-678	○	○	○	農場	モバイルWi-Fi	モバイルWi-Fi
出張先	出張先	12-345-678	○	○	○	出張先	モバイルWi-Fi	モバイルWi-Fi
在宅	在宅	12-345-678	○	○	○	在宅	モバイルWi-Fi	モバイルWi-Fi

KOKOMOの管理用ユーザーインターフェイス。「ダッシュボード」から、ユーザーの利用状況を確認できる。

KOKOMO導入事例
はこちら



※APRESIA、KOKOMOは、APRESIA Systems株式会社の登録商標です。